



柏崎おもちゃドクター連絡会 会長

佐藤 和博

SATOU KAZUHIRO

1962年 千葉県柏市出身
1991年 柏崎市へ
2000年「柏崎おもちゃドクター連絡会」発足

ラジコンやミニカー、オルゴール、ぬいぐるみ。子供たちが大切にしているおもちゃが動かなくなった時、不具合のある箇所を診断して治療（修繕）してくれる「おもちゃドクター」と呼ばれる人たちがいる。佐藤和博さんもその一人。

佐藤さんは現在も仕事の傍ら、リフトバスの運転手や移動支援など数々のボランティアを行うが、その起点になったのはおもちゃドクターだったと振り返る。

2000年に発足した、柏崎おもちゃドクター連絡会に加盟している人はおよそ40名。「柏崎おもちゃ病院」の活動は、フォンジェ1階のキッズマジック前で行われる定例開催の他、イベントなど、常にボランティアでおもちゃの修理を請け負う。

佐藤さんがおもちゃドクターになったのは38歳の時。「東京おもちゃ美術館」を立ち上げた故松尾達也さんを講師に迎え、柏崎市で養成講座が開講された。

子供の頃はプラモデルを作ったりラジオを組み立てたりするのが好きだったという佐藤さん。昔やっていた工作の楽しさを思い出して参加してみようと思ったことがきっかけになった。

講座終了後、参加した人たちの賛同を

得ておもちゃ病院を運営するボランティア組織が立ち上がった。それが今も活動を継続する「柏崎おもちゃドクター連絡会」の始まりだ。

柏崎は早くから活動が始まった地域で新潟県は隣県に比べおもちゃ病院の拠点もかなり多い。佐藤さんは全国でも数人しかいない「日本おもちゃ病院協会」のキーマン（専任講師）の資格を持ち、主に県内で開催されるおもちゃドクター養成講座の講師を務める。講座は会として依頼を受け、メンバーがそれぞれ電気回路、計測器の説明、実践など役割を分担しながらチームで進めているのが特長だ。

「柏崎おもちゃ病院」には毎回様々なおもちゃの修理が持ち込まれるが、意外にも修理の方法や内容は20年前と大きくは変わっていないという。「修理の終わったおもちゃを手渡す時にお子さんがニコニコしながら、ありがとうと言ってくれるのは何よりのやりがい」だとメンバーは口を揃え、顔をほころばせる。

また、会のメンバーはオーディオや無線など技術的な追求をしてきた人が多く、実はかなりマニアックな技術者集団。電気が得意な人、木の加工が得意な人、縫い物が得意な人など、長年の活動でお互いの個性もわかるようになり、得意な人が得意部分を担当しながら無理なく楽しく修理を行っている。「会は、おもちゃを修理する目的で皆が集まるサロンのような雰囲気。楽しくやるのがボランティアを長く続ける秘訣」だという。

会では毎年おもちゃドクター養成講座を開催。依頼があればイベントの出展にも積極的に参加していきたいと話した。



お問い合わせ

柏崎おもちゃ病院

フォンジェ1F キッズマジック入口
毎月第2日曜 午前10時～午後3時 *8月は除く